

平成27年度博物館施設評価集計シート
(3月末最終)

施設名 さきたま史跡の博物館

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

1. 全館共通項目

(1) 数値目標による評価

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	328	人	A	339人×97%	
				368	人		開館日数:261日 総観覧者数: 103,541	
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	328	人	A	339人×97%	
				368	人		開館日数:261日 総観覧者数: 103,541	
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	546	件	C	552件×99%	
				262	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	707,901	件	C	453,783件×156%	
				272,334	件		更新145回	
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	268	件	A	146件×184%	
				747	件		掲載件数74件	
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	11,392,000	円	A	当該年度予算計上額	
				12,845,030	円		6,649,300円+4,470,400円	

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	12	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	17	件	A	別紙チェックリストによる	
				17	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				12	件			
9	施設の活用	施設の利用・活用	施設の利用・活用状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			

2. 館別独自項目
 (1) 数値目標による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	企画展・テーマ展の入館者数	35,000	人	A	昨年度実績	
				43,810	人			
2	利用状況	出前授業	出前授業の実施校数	10	校	A	昨年度実績	
				18	校			
3	利用状況	学校利用	学校団体の博物館利用校数	200	校	A	昨年度実績	
				219	校			
4	資料管理	資料点検	年間の点検資料数	800	点	A	資料点検年次計画による	
				982	点		長瀬総合博870+収蔵庫定期清掃時112	
5	満足度	常置アンケート	アンケートでの展示満足度	80	%	A	昨年度実績	
				93	%			
6	満足度	講座等アンケート	アンケートでの講座等受講者満足度	80	%	A	昨年度実績	
				95	%			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成度			特記事項	
1	史跡整備	史跡整備事業の実施と活用	国史跡整備の実施状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				8	件			
2	古墳公園空間の提供	公園整備と利・活用	古墳公園としての実施状況	5	件	A	別紙チェックリストによる	
				5	件			
3	考古資料を活用した体験プログラムの提供	考古体験事業の実施	機能や特色を生かした体験プログラムの実施状況	6	件	A	別紙チェックリストによる	
				6	件			
4	魅力ある展示事業	企画展示事業の実施	各時代の考古学をテーマとした企画展の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	①鉄砲山古墳・二子山古墳の発掘と、稲荷山古墳の史跡整備 ②埼玉古墳群総括報告書刊行に向けた準備 ③収蔵資料等の保存と公開・活用 ④企画展「古墳の終焉と律令時代の幕開け」、テーマ展「縄文の不思議な世界」、最新出土品展「地中からのメッセージ」開催 ⑤出前授業「なるほど古墳時代」と、自由研究相談窓口「調べてわかる埼玉古墳群」実施 ⑥まが玉づくりをはじめとする各種体験事業の実施 ⑦利用促進のための広報活動 ⑧ゲーグルモバイルアプリに参加
事業の成果	①稲荷山古墳の礫礫表示陶板を設置 ②埼玉古墳群総括報告書刊行委員会を開催。執筆分担等を確認 ③国宝武蔵埼玉稲荷山古墳出土品の公開 ④企画展16,638人、テーマ展12,499人、最新出土品展14,673人 ⑤出前授業18校41学級1,240人、自由研究相談窓口36人 ⑥まが玉づくりセット販売個数1万個達成 ⑦「まが玉づくりと国宝見学」チラシ配布(県内小学6年対象、7月) ⑧ゲーグルモバイルアプリ3点(7月28日公開)

基礎データ

職員数 (学芸員数)	24人 (10人)	総予算額 (人件費を除く)	68,773,000円	職員一人あたりの県民人口	30.1万人
収蔵資料総点数	2,213箱	事業経費 (上記の内数)	18,668,000円	利用者一人あたりのコスト (平成26年度)	773円
平成26年度 収集資料点数	8箱	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	11,392,000円 (7,514,000円)	県民人口に対する利用者割合 (平成26年度)	1.57%

(注)平成27年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,242,442人である

平成27年度 博物館施設 総合評価

施設名 さきたま史跡の博物館

		A評価	B評価	C評価
全館共通	数値目標による評価	4	0	2
	チェックリストによる評価	9	0	0
各館独自	数値目標による評価	6	0	0
	チェックリストによる評価	4	0	0

自己評価総括

評価	<ul style="list-style-type: none"> ・稲荷山古墳埋葬施設表示のリニューアルなど、着実に史跡整備事業を進めている。 ・展覧会と講座を連動して開催するようにしたことは効果的であったと思われる。 ・まが玉づくりセットの年間販売個数が1月で1万個を達成し、着実に体験事業が定着してきている。 ・資料活用において、館外貸出26件・1,259点、特別利用276件・20,091点は他館と比べて突出して多く特記に値する。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館ユニバーサルデザインの取り組み。 ・評価結果を改善に反映する仕組みづくり。
対応の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・職員全体で博物館評価の意義を理解し、共有していく。

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	<ul style="list-style-type: none">・「利用状況」のインターネットのアクセス件数を増やすためには、例えば、さきたまは古墳事典、嵐山は城館跡事典を起ち上げ、年々充実させてその更新件数もカウントしてはどうか。またコンテンツの作成にはボランティアの参加も考えてはどうか。・「広聴・広報」について、さきたまの戦略的広報が効果があったなら、両館同一歩調で一斉メールなどによるアピールを積極的にやるべきである。・さきたまに対し嵐山の「普及事業」の応募者数が優位なのは、嵐山が中世に特化してアピールした結果であり、さきたまも内容を古墳に特化して実施したらどうか。・「ボランティア」の活動について、ボランティアの参加意識を高めることと、スキルアップを図ることが必要である。・「学校利用」について、体験事業の実施は博物館として今後も続けていくべきであり、評価も、事業の成果が上がる適正人数を目標にして達成率と満足度を指標にしてはどうか。・人口減少時代に大幅な入館者増は見込めないので、評価項目について事業ごとに事業効果の上がる目標値を設定すべきだ。・全館共通項目については、項目の設定から見て仕方がないことと思われるが、マクロ的な自己評価しかされておらず、博物館の真の姿を伺うことが難しい。評価方法の改善が望まれる。・「資料の活用」あるいは「調査研究事業」などで出版される刊行物などは、H.PIにPDFファイルを掲載してはどうか。・考古学に関する埼玉県ナショナルセンターとしての役割を強くした情報発信を行ったほうがよい。・史跡見学については、単に史跡を見学するだけでなく、歴史地理的観点も考慮し、ストーリー性を持たせた企画を考えてほ
--------------	--

2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見	
----------	--